

社会教育施設の自己紹介

【施設名】

神戸市立博物館

【施設概要】

神戸市立博物館は、神戸の旧外国人居留地の一角にあります。外国人居留地は幕末の開港以来、文明開化の窓口となり、また神戸の発展を支えてきたところです。神戸は古くから中国や朝鮮と交流があり、近代以降は欧米諸国との交流の窓口になりました。その象徴的な立地にあることから、当館では「国際文化交流 東西文化の接触と変容」という基本テーマをもうけ、人文系の博物館として昭和57年11月に開館しました。



↑ 【博物館正面】

旧外国人居留地は明治32(1899)年に日本に返還されてから、銀行や会社が建ち並ぶビジネス街になりましたが、歴史のある近代洋風建築を活かして近年は有名ブランドのブティックやレストランが新たに立地するおしゃれなスポットにかわっています。博物館はその中心にあり、桜井小太郎の設計による昭和10年建築の旧横浜正金銀行神戸支店の建物を転用し、一部増改築したものです。正面にドリス様式を模した列柱が建つギリシャ建築風の重厚な建物で、同じく旧居留地にある十五番館(国指定重要文化財)や海岸ビル(国登録文化財)と並び貴重な歴史的建造物です。神戸空襲(昭和20年)、阪神・淡路大震災をくぐり抜けて、平成10(1998)年に国の登録文化財になりました。

【聖フランシスコ・ザヴィエル像】→

昭和57年の開館にあたって、それまで神戸市立の施設であった南蛮美術館と考古館を統合しています。南蛮美術館は神戸の素封家池長孟(いけながはじめ)氏が収集したコレクションを母胎に16世紀以降の外国の影響を受けた南蛮・紅毛美術を収蔵、展示していたところです。その中には聖フランシスコ・ザヴィエル像や南蛮屏風など、教科書などでもお馴染みの資料が少なくありません。

また考古館は、昭和39年に市内の灘区桜ヶ丘で発見された銅鐸・銅戈(国宝)などの考古資料を収蔵、展示していた施設です。この両館の豊富な収蔵品をもとに、神戸の歴史資料等を新たに収集しているため、当館のコレクションは開館時から恵まれた状況でした。

それに加えて、開館後、相次いで南波松太郎氏、秋岡武次郎氏収集の古地図のコレクシ



ョンを加えることが出来ました。

当館のコレクションは南蛮紅毛美術などの美術資料、桜ヶ丘銅鐸・銅戈などの歴史資料、古地図資料の3分野に分けることが出来ます。この他にも神戸にゆかりのある芸術家の作品の収集にも努め、現在、国宝1件21点、重要文化財7件76点をふくむ約4万点の資料を収蔵しています。

【桜ヶ丘銅鐸・銅戈】→



展示では、神戸の歴史を紹介する常設展、南蛮紅毛美術や古地図のコレクションなどを紹介する企画展などとともに、特別展を年間3～4回開催しています。常設展は、通史的な展示ではなく、海外との交流という視点を活かしたテーマ展示的な要素を盛り込んでいます。企画展は年間3～4回程度、各コレクションからテーマを定め、選りすぐった内容となっています。ザヴィエル像や南蛮屏風などはこの企画展で展示することが多いため、ご覧の方は当館のホームページなどで展示期間をご確認下さい。

神戸市立博物館ホームページ：<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/museum/main.html>

【特色ある取組】

近年、当館が特に力を入れているのが子ども向けのさまざまな事業です。子ども向けの普及事業や学校の校外学習への対応は、これまでもさまざまに取り組んできましたが、近年はその数も質もより一層充実したものとなっています。ジュニアミュージアム講座（博物館資料を利用した体験型ワークショップ）、夏休み土器づくり教室（土器の成形から焼成、展示まで）、博物館たんけん隊（館の裏側を探検）、こうべ歴史たんけん隊（地域に出かけて史跡を散策）などの毎年恒例のものだけでなく、展覧会にあわせてさまざまな取り組みを行っています。

【夏休み土器づくり教室】→



←【ワークショップ】

18年度では、夏休みに『ホンモノたちが教科書をとびだした』という子ども主体の企画展を開催し、教科書などに登場するザヴィエル像や銅鐸などの館蔵資料を一堂にならべ、解説も子どもを対象にした展示としました。このような展示の上での工夫だけでなく、展示に関連した普及事業に

より一層力を注ぎ、事前応募のワークショップ、随時参加できるワークショップを毎日のように実施し、3000名近くの参加を得ました。

日本にキリスト教を伝えたザヴィエル像を見た子どもたちだけでなく、大人からも「教科書に載っていたのは神戸の博物館のものだったの！」と驚きの声が出て、親子で一緒に学習する貴重な体験になったのではと思います。

また1月8日まで開催した『オルセー美術館展』では、ワークショップだけでなく、親子で一緒に楽しむ「クリスマスこども鑑賞会」、就学前のこどもと保護者を対象とした「ちいさなこどもたちといっしょ・親子鑑賞会」を年末の休館日を利用して開催しました。

「クリスマスこども鑑賞会」では、『オルセー美術館展』のこども向けガイドブックを作成していただいた小・中学校の先生方によるギャラリートーク、クイズを交えた解説会、スケッチなどの行事を組み込みました。ギャラリートークで自分の印象を語る子ども、床面にすわってスケッチする子ども、気兼ねなく感想を話し合う親子など、普段とは違った子どもが主役の展示室となっていました。いずれも参加者から好評をいただき、また遠隔地からの参加者もあり、参加者は親子あわせて2500人にのぼりました。



当館では、このような博物館に来ていただく取り組みだけでなく、博物館が学校などへ出かけていく連携事業も精力的に進めています。出張授業の回数は年々増加傾向にあり、また教材用に製作した南蛮屏風や竪穴住居のキッドなどの貸出も増加しています。これらの子ども向け事業や学校連携は、学芸員や指導主事が中心になって博物館全体で取り組んでいます。

【出張授業の様子】→



【今後の企画展の紹介】

○ヴィクトリア&アルバート美術館所蔵初公開 浮世絵名品展

平成20年1月12日（土）～2月17日（日）

ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館は、大英博物館とともに英国を代表するミュージアムです。その膨大なコレクションの中に、日本の浮世絵が約2万5千点が含まれており、近年の調査でその全貌が明らかになりました。春信、歌麿、北斎、暁斎など、初公開作品約160点を紹介します。華麗な錦絵、日用品ゆえに残っていることがまれな団扇（うちわ）絵、色鮮やかな狂歌絵本、絵師の生の息吹を感じさせる肉筆画や画稿などをご鑑賞下さい。

○南蛮美術企画展 バイオグラフィ 異国趣味

平成20年3月1日（土）～3月30日（日）

織田信長、高橋景保、永見徳太郎……。桃山時代から昭和初期まで、日本の異国趣味美術を形作った画家・権力者・学者・コレクターたちの「伝記」を軸に、当館の資料・作品を一挙公開します。



織田信長像（重要文化財）

桃山時代 天正11年（1583）古溪宗陳賛



豊臣秀吉像

桃山時代